

第 53 回 全 関 西 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第53回 全関西バスケットボール大会				
●日程	令和7年3月22日 (土) ~		令和7年3月24日 (月)		
●会場	県立総合体育館体育館小アリーナ 他 (全5会場)				
●講師	黒岡 和哲 様 北沢 あや子 様				
●スケジュール	令和7年3月22日 (土)				
	9:30 各自割当に合わせて会場入り 10:00 実技研修 18:45 全体研修会受付 19:15 全体研修会 20:30 終了				
	令和7年3月23日 (日)				
	各自割当に合わせて会場入り 9:00 実技研修				
●担当試合	令和7年3月22日 (土) 11:40 ~				
	対戦カード	清水ヶ丘		VS	中村学園女子
	主審(CC)	岩田友幸(岡山)	副審(U1)	平出圭佑	(U2)
	講師/主任	IRなし(クルーでの振り返り)			
講評	特に大きなケースもなく、スムーズにゲームを進行できた。テンポセットとして1Qに手のコンタクトをマージナルにせずにコールしてもよかった。後半から両チームともDFを頑張りだしたところで、倒れるケースが出てきた。ノーコールでゲームを進めたが笛を入れてメッセージしてもよかった。				
自己の感想	2POなのでプレイを予測してポジションアジャストをしないと見えないケースが出てきてしまうなと感じた。そのため2POではより一層のクルーワークとオープンアングルを確保するための動きが大事だなと感じた。DFの腕や手が顔にヒットするものへのテンポセットの意識をもっと強く持つていかないといけないと思った。				

●担当試合	令和7年3月22日 (土) 14:00 ~				
	対戦カード	岐阜女子		VS	奈良文化
	主審(CC)	熊本裕一郎(広島)	副審(U1)	平出圭佑	(U2) 池田保之(岡山)
	講師/主任	IRなし(クルーでの振り返り)			
	講評	2人が鳴っているケースで、「見えたからコールしているのか」「自分がプライマリでないことをわかった上でコールしているのか」で振り返りの仕方が異なる。ただファウルだと思ったからコールしたのであれば、プライマリは誰なのか?の理解の話になるし、セカンダリだとわかった上でコールしたのであれば、笛のタイミングが振り返るポイントになる。ブロック・チャージのケースでプライマリは判定とプレゼンのあまり、カウントかどうかの確認が抜けてしまうことがある。この時にクルーがしっかり把握して伝えることができるようにしていく。			
自己の感想	「ならないな」と思ってコールしたケースがいくつかあったが、それでも笛はまだ早いケースがあった。自分n感覚として遅すぎるくらい感覚がちょうど良いのかなと感じた。クルーとしてスムーズにゲームを運営できた。クルーワークで処置ミスを防ぐことができた場面もあったので良かった。ショットのカウントかどうかもコーリングオフィシャルが最後まで確認するために、ファウルを吹いた後にステイする時間を作ると改善できると思いました。				
●担当試合	令和7年3月23日 (日) 13:00 ~				
	対戦カード	豊浦		VS	広陵
	主審(CC)	増田尚大(岡山)	副審(U1)	河合健一郎(岡山)	(U2) 平出圭佑
	講師/主任	IRなし(クルーでの振り返り)			
	講評	テンポセットという意味でも積みたいものをコンスタントにコールしていたのがゲームが落ち着く要因だったと思う。その中でダブルコールになっているケースのプライマリを確認して欲しい。エッジのプレイを見るときに顔だけで見てしまっているケースがあったので、パラレルに開いて見ていることをクルーにメッセージしてくれるとありがたかった。			
自己の感想	ゲームの中でこれはやめてほしいというコールができた。ポストプレイに対して後方から脚を入れて押すものなど。セカンダリとして笛を入れるケースで、笛のタイミングがいいところと早すぎる所と両方あった。プライマリをもっともっと精査してホールドできるものを増やしていきたい。				
●担当試合	令和7年3月23日 (日) 15:40 ~				
	対戦カード	県立広商		VS	神戸科学技術
	主審(CC)	山本風太(広島)	副審(U1)	平出圭佑	(U2)
	講師/主任	IRなし(クルーでの振り返り)			
	講評	両チームともに合わせのプレイをいろいろ試したいというプレイが多かった。後半に入って両チームともにDFをがんばりだしてイリーガルなコンタクトが多くなった。そのゲームフローに対してレフリー側が遅れることなく対応できたのではないかなと思う。ただ、かなり時間がかかってしまった。コールしているもので削れるものもあった。			
自己の感想	ポジションアジャストした結果、見えるものが増えてコールに繋げることができた場面がたくさんあった。セカンダリで笛をいいタイミングで入れることができたケースもあったのでよかった。笛が多くなることで、クイックホイッスルになってしまった場面があったので、そういうときこそ丁寧にプレイを見て吹き急ぐことなく判定していけるように自分をコントロールできたらいいなと感じた。				

●担当試合	令和7年3月24日 (月) 9:00 ~				
	対戦カード	大阪薫英女学院		VS	桜花学園
	主審(CC)	中村孝(広島)	副審(U1)	平出圭佑	(U2) 松濤晴紀(香川)
	講師/主任	黒岡和哲氏			
	講評	<p>ポジションアジャストをしてプレイにコネクトしていくことがもっとも必要。プライマリでないのに同じタイミングでなってしまう場面があるので、プライマリに預けてケイデンス。そのために、どんなことが起ころうとしているのか、プレイヤーとレフリーの両方を頭に入れてレフリーして欲しい。プライマリであればペイシエントとクイックコールの使い分け。パートナーが吹いた笛に対しての異論表現でコーチとコミュニケーションをとる場面があったが、笛を吹かずに少しベンチに近づいてみるとか、笛を吹かないコミュニケーションの方法をやってみる。笛を吹いてベンチに向かうのであればTFが良い。</p>			
自己の感想	<p>少しずつではあるがプレイに対してポジションを工夫してコネクトできる場面が増えてきた。まだまだ不十分ではあるが、ポジションアジャストからコネクトできる機会を増やしていく。プライマリでないのに同じタイミングで鳴ってしまうケース。特に自分の目の前から始まって最後はパートナーのプライマリでコンタクトが起こるケースについてのノーコールホールドが課題。自分がどんな場面になってしまう傾向があるのかを分析して意識して取り組んでいきたい。最後になりましたが、3日間貴重な経験をさせていただきました。全関西派遣の機会をいただきありがとうございました。</p>				